

## 図書館等複合施設の建設に向けた検討(4)

# 白馬村図書館施設検討委員会による報告書がまとまりました

詳しい内容は白馬村役場ホームページに掲載してあります。報告書をご覧ください。報告書は窓口でもお渡しできます。  
\*お問合せ 白馬村教育委員会 生涯学習スポーツ課

白馬村では、新しい図書館の建設に向けて、学識経験者やPTA等の長、学校長、公募委員等で組織する図書館施設検討委員会を平成29年7月に立ち上げ、図書館のあり方や施設整備について検討を進めてきました。

検討委員会では「村民が望む図書館像とは何か」ということを探るため、ワークショップやアンケートを実施し、村民の意見をできる限り集め、それをもとに「白馬らしさ」が感じられる図書館について協議し、報告書としてまとめました。



1年以上にわたり9回開催された検討委員会

## ■新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書(要約)

### ○新しい図書館のコンセプト

図書館が村民一人ひとりの道標となるようにと願い、登山者の道標となる「ケルン」をコンセプトとしました。

図書館が、そこにある資料や集まっている人びとからの情報や刺激によって、日々の仕事や生活の中で抱えた課題解決の一助となったり、そこを目指して立ち寄るだけでも何かを得られたりするような「街中のケルン」としての存在となるよう期待します。

### ○基本的な考え方(抜粋)

①幼児から高齢者まで誰でも利用しやすく、会話ができる場所と静かな場所を区分けすること

②景観や自然を大切にするとともに、地域の資料を展示するなど白馬らしさを感じられる図書館とすること

③飲食できる場所を検討すること

④その他、拡張性や省エネルギーなど将来を見据えた施設とすること。また、専門職員の増員やボランティアの配置等も検討すること

### ○建設に向けて留意すべき点

新しい図書館の建設にあたって以下の点に留意するよう提言しました。

①子連れでも気兼ねなく立ち寄れるよう配慮し、子どもも一時預かり機能などを有する施設も同時に整備すること。

②子どもを見ながら気軽に利用でき、また高齢者にも利用しやすいカフェを施設内もしくは近接した場所に設置するよう検討すること。

③ゆとりあるスペースを確保し、利用者にとって居心地のよい空間づくりを行うこと。

④建物はデザインに偏らず、維持管理や安全に配慮したものとすること。また、白馬三山が見渡せるなど自然を感じられるような設計とすること。

⑤多目的室など日常的に使用しない場合は一般に開放すること。

⑥開架図書スペースで閉架図書リストも一覽できるように工夫すること。

⑦既成の概念にとらわれないこと。音・飲食・遊びといった点に配慮して全体の設計・運営にあたること。



コンセプトは道標であり人が集う「ケルン」

### ○建設候補地

候補地の条件として、自然に囲まれていて、学校等から近く、誰もが立ち寄りやすい場所であることを考慮して検討した結果、現在の子育て支援ルームがある場所を推奨することとしました。木流公園が隣接していて、役場や北小学校が近くにあり、村有地であるため新たに土地を取得する必要がないということが推奨の理由です。(建設地は決定ではなく、今後も有識者会議等で議論・検討していきます)



## 有識者会議の経過報告

10月25日(木曜日)に第2回有識者会議を開催しました。

### ■報告事項

- ・図書館施設検討委員会からの報告  
(右記のとおり)
- ・ワークショップの報告  
(下記のとおり)
- ・他自治体の図書館等複合施設の事例  
栃木県茂木町、沖縄県恩納村、木曾町、  
松川村、池田町等の図書館複合施設の  
機能及び事業費等を資料提供しまし  
た。

### ■議論の概要

- ・複合化にあたっては、公共の施設機能だけでなく、民間の施設・機能も併せることで収益や交流を生み出すことができる。
- ・スポーツと文化・エンターテインメントを融合させて、五感をフルに使うリアルな体験の入り口となる図書館ができれば面白いと思う。
- ・観光は「非日常」の体験であるが、他の観光地と違って白馬は住民の日常と観光客の非日常が混在している。住民と観光客が日常と非日常の両面を楽しめる施設となってほしい。
- ・健康寿命延伸のためには読書が有効というデータがある。多世代の交流も創出しながら、健康づくりに寄与する図書館という視点も大切にしたい。

\* 次回の会議では、複合化する機能を具体的に絞っていくとともに、事業費の目安についても検討していく予定です。

- ・白馬村の既存公共施設の複合可能性  
耐用年数を超過している施設のうち複合可能性の高いものとして、歴史民俗資料館、子育て支援ルーム、多目的集会所、食品加工施設、放課後児童クラブ等を挙げました。
- ・施設整備に活用できる補助制度  
社会資本整備総合交付金、地方創生拠点整備交付金等、活用可能性のある各種補助金を資料提供しました。
- ・複合化に併せて魅力を高める機能  
既存施設・既定概念にとらわれず、人々の交流や収益を生み出せる可能性の高い機能・施設を検討しました。

## ワークショップの経過報告

10月19日(金曜日)に第2回ワークショップを開催しました。

### ■概要

初回のワークショップでは、5つのグループに分かれてSDGs(持続可能な開発目標)の17の目標に沿って「白馬村にあつたらいいもの」を出し合いました。参加者には次回までの宿題として、周囲の人たちからも同様の意見を集めてくることが宿題として課されました。

2回目のワークショップでは、まず宿題として集めた意見を各グループで共有しました。共通項を探り、それを実現するための機能を考える途中で時間切れとなり、続きは最終回に持ち越しとなりました。

### ■主な意見

\* 図書館に閉じてだけでなく、村全体の「あつたらいいもの」を挙げています。一定の不便さも健康やイノベーション(革新)に寄与するべき。

- ・移動の観点からも、あらゆる人が利用しやすい施設であってほしい。
- ・豊かな自然環境を「見て終わり」にするのではなく実体験から学べる仕組みを創りたい。
- ・多くの意見を反映させたいが、財政的なバランスも重要である。
- ・クリーンエネルギーを活用した公共交通や雪室の活用に関するセミナーを開催するなど、環境に配慮した村づくりの拠点となつてほしい。
- ・余剰農産物を持ち寄り、量り売りをしたり、調理して来館者に提供するような機能を持つ。
- ・憩いの場として公園を併設してほしい。
- ・多文化や言語を学ぶ場がほしい。

次回のワークショップで最終回となりますが、参加者からは「もっと議論したい」「継続して活動していきたい」といった声も挙がっています。



ワークショップでは、多様な参加者がお互いの意見を尊重し合い、たくさんの意見が出されています。